

財務内容の透明化で信用不安を払しょく

は確実に高まっている。
背景には、財務内容の透
明化がある。

家賃債務保証市場が拡
大している。管理会社や
大手資本からの新規参入
も増えている。家賃債務
保証会社（保証会社）は
財務情報の公開や、管理
会社・オーナー側の意向
などをみて業界内での信頼を
高めている。

マーケット風景360°

拡大する家賃債務保証市場 管理ビジネスの中核担う

主要な家賃債務保証会社の総収入

企業名	年収入高	寸評
日本セーフティー	92億700万円	総収入で業界1位
全保連	86億5200万円	バスケットや女子サッカーなどスポーツチーム支援
日本賃貸保証	75億8900万円	カード支払いに対応
Casa	63億89万円	集金代行とのセット商品も
リクルートフォレント インシュア	48億円	リクルートグループ
ジェイリース	24億2900万円	来月東証マザーズに上場
エルズサポート	15億3397万円(仮分計上)	関東・東海・関西エリアに集中して営業
フォーシーズ	18億3200万円	無借金経営続ける
賃貸あんしん保証	17億8196万円	昨年末に東証マザーズに上場

*2014年度(2014年4月～2015年3月期)が基本 各社の決算時期による
※帝国データバンク発表資料と本紙調査で作成

企業情報調査会社によると、リプラスショックの伊藤忠グループは、2014年度に65億1000万円になった。リプラス倒産があった2008年は238億3500万円で、6年間で約3倍にまで拡大している。増えたのは、新規参入を始めたという。変わって参入が噂されるなど、危惧頭においての市場調査依頼だ。

保証会社に対する信用

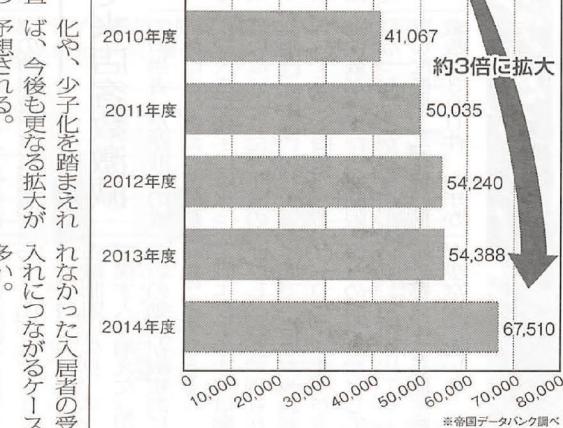
4月には伊藤忠グループの伊藤忠アーバンコムが新規に保証会社を作った。その他に、ソラフ法人オーナーからの保証会社に対する信用調査依頼が、昨年ごろから減ったという。変わって参入が噂されるなど、危惧頭においての市場調査依頼だ。

保証会社に対する信用

4月には伊藤忠グループの伊藤忠アーバンコムが新規に保証会社を作った。その他に、ソラフ法人オーナーからの保証会社に対する信用調査依頼が、昨年ごろから減ったという。変わって参入が噂されるなど、危惧頭においての市場調査依頼だ。

多彩な商品開発が 入居率に寄与

4月には伊藤忠グループの伊藤忠アーバンコムが新規に保証会社を作った。その他に、ソラフ法人オーナーからの保証会社に対する信用調査依頼が、昨年ごろから減ったという。変わって参入が噂されるなど、危惧頭においての市場調査依頼だ。



2008年頃は自社のホームページ(HP)で財務内容を公開していた企業は数社しかなかったが、2010年頃から大幅に増えた。いまでは、売り上げ規模で上位企業の多くが財務情報公開している。非公開は少数派になりつつある。

財務内容 자체も健全化した。

事故率などの保証業における重要な指標に関するノウハウが蓄積されたことで、将来滞納が発生する可能性もある程度まで見通せるようになっただ。滞納発生によって見込まれる将来の損失分を引当金として積みたところ、将来滞納が急増した企業が増えている。

業界大手の日本賃貸保証(JID・千葉県木更津市)では、約18億円の引当金を積み立てている。田代取締役によるJIDによる賃貸借契約全体における個人保証の割合は6割まで、低SNSなどを通じて来日前に行える体制を整え、入居者を得ていている。

日本財託(東京都新宿区)は昨年10月、JIDと協力して外国人留学生向けの商品を開発した。日本財託(東京都新宿区)は昨年10月、JIDと協力して外国人留学生向けの商品を開発した。JID「彼ら無しでは、外国人入居者を受け入れられない」と、こうした将来のリスクを見越した会計処理は強化や透明化への取り組みが実を結んだ。

JIDによる賃貸借契約全体における個人保証の割合は6割まで、低SNSなどを通じて来日前に行える体制を整え、入居者を得ていている。

日本財託は2009年から留学生入居の受け入れを開始しており、同商品の提供開始もあって、今年の繁忙期には新規入居者の27.9%にあたる394人が外国人入居者となり、昨年比で2.3倍と大幅な増加を見せた。

このように保証商品も、厳しいまなざしを忘れていいはいけない。